

安心の地域
医療を支える



JCHO × ニュース

ジェイコー
Japan Community Health care Organization

2017 WINTER 冬号 | ジェイコーニュース | vol.12

独立行政法人地域医療機能推進機構

CONTENTS

p.02 ニュース

p.03 【連続企画】医師派遣 派遣医師と受け入れ病院に聞く

第1部 派遣医師

中京病院 専攻医 玉腰 大悟

大阪病院 初期研修医 佐々木 強

九州病院 専攻医 阿部 巧

司会：JCHO 本部医療課長 吉住 奈緒子

第2部 受け入れ病院

秋田病院 副院長 金子 兼喜

高岡ふしき病院 院長 加藤 弘巳

若狭高浜病院 院長 河野 幸裕

司会：理事（総合診療医・病院経営担当）内野 直樹

p.07 【特集】第2回 JCHO 地域医療総合医学会

継続テーマシンポジウム・シンポジウム座長より

東京山手メディカルセンター 院長 万代 恭嗣

大阪病院 院長 山崎 芳郎

理事（管理・労務・経営担当）宇口 比呂志

神戸中央病院 院長 大友 敏行

四日市羽津医療センター 院長 住田 安弘

りつりん病院 院長 前場 隆志

JCHO 本部 患者サービス推進課長／看護研修課長 河嶋 知子

学会事務局より

一般社団法人 地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

p.13 【インフォメーション】

広報力向上への取り組み

p.14 【トピックス】地域に貢献する JCHO 病院の取り組み

小児医療 さいたま北部医療センター 小児科 中村 明夫

周産期医療 相模野病院 周産期母子医療センター長 吉原 一

へき地医療 玉造病院 整形外科 吉田 昇平

p.16 【JCHO GROUP】全国病院 MAP



救急車到着 出迎える研修医たち

やりがい、拡充への期待

連続企画 医師派遣 派遣医師と受け入れ病院に聞く

特集 第2回 JCHO 地域医療総合医学会

【ジェイコーニュース】 2017 WINTER 冬号 vol.12 独立行政法人地域医療機能推進機構 〒108-8583 東京都港区高輪3丁目22番12号 TEL:03-5791-8220

安心の地域医療を支える

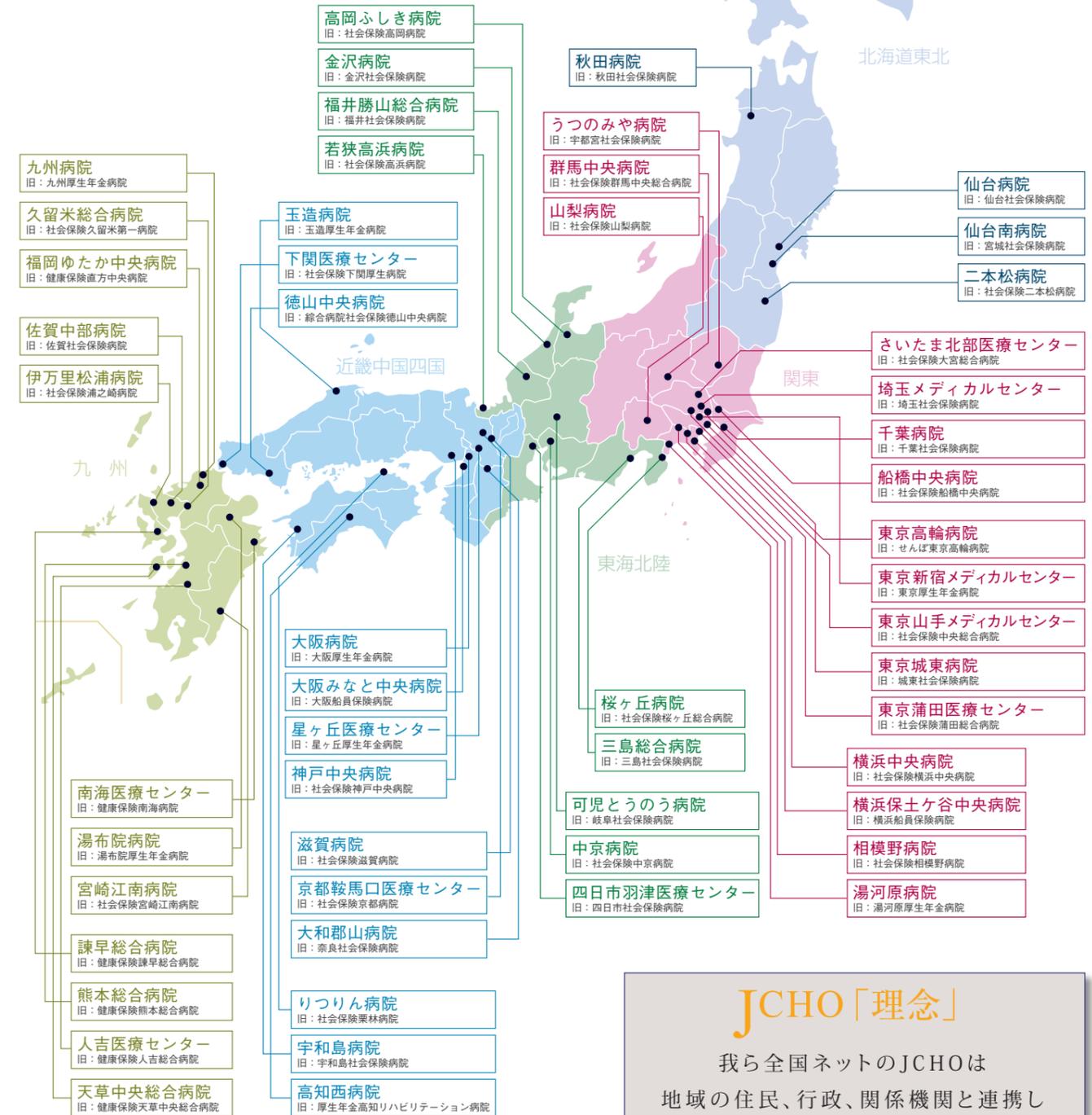
JCHO GROUP

地域医療機能推進機構
全国病院MAP

本部

〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 URL http://www.jcho.go.jp/

TEL:03(5791)8220 FAX:03(5791)8258



JCHO「理念」
我ら全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

地区事務所

北海道東北地区事務所 〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町27-21 仙台橋本ビルディング701

関東地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F

東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院健康管理センター内

近畿中国四国地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78 JCHO大阪病院別館3階

九州地区事務所 〒806-0034 福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1 九州病院内



やりがい、 拡充への期待

医師派遣における派遣医師と受け入れる病院、 双方の立場から現状と課題について伺いました。

第一部 派遣医師

吉住 ●本日は医師派遣に行かれた3人の先生にお集まりいただきました。よろしくお願います。まず、ご自身の紹介と、派遣が自分にとって良かった点、悪かった点をお話してください。

玉腰 ◆中京病院の玉腰です。卒業3年目で、秋田病院に2年目の9月に4週間派遣されました。メリットは、普段、中京病院の初期研修ではできない内科外来の業務ができたことです。また、入院業務でも、患者を10人も抱え主治医として診るといのは、秋田病院でしかできなかった経験です。

内科の先生方は50歳以上で、若い医師が来ることを病院全体で歓迎してくれました。看護師さんも1人の医師として見てくれたので病棟の業務もやりやすく、宿舎に帰ってからもしっかり自分で患者さんのことを調べられたので、普段より患者さんを診ている実感がありません。

午後は週2回位、指導医の先生や近隣の開業医の先生と車で訪問診療行き、患者さんがどこから来て、どう帰っていくかを知りたい経験になりました。メリットは思い浮かばないです。4週間とても充実していました。

佐々木 ◆大阪病院、研修2年目の佐々木です。10月に若狭高浜病院で1か月間研修をさせていただきました。よかったのは、都会ではあまり見られない海辺の症例、釣り針の外傷やウニのどげの外傷などを診れたことです。小規模でマンパワーも少ない病院でしたので、研修医でも主体性を持って治療方針の決定を任せていただいたり、メインで退院の調整を行ったりということは普段はあまりなく勉強になりました。

療養型の病床の長期療養中の患者さんも多く、急性期の疾患を治療するだけではなく、患者さんの社会背景も考慮して退院調整などを行うことの必要性を実感しました。医療資源も都会の大きな病院に比べると少ない現状だと思います。必要最低限の検査に絞り、問診やベッドサイドでの診察の重要性もあらためて感じました。

メリットは、普段の病院での当直業務から1か月離れ、帰ってきたときにプランクを多少感じました。研修先の病院でも当直業務に入れたらもっとよかったです。

阿部 ◆九州病院の阿部です。3年目で循環器内科をやっています。10月の初めから1か月間、登別病院に行きました。午前中は外来、午後は病棟。内科医は私を含めて3人。あとは整形外科の先生

熊本県知事より JCHO 尾身理事長へ感謝状

4月に発生した熊本地震に際し、被災地や避難所等における支援活動に対して、熊本県の蒲島知事より感謝状が贈られました。DMAT や医療救護班の派遣、被災地域からの患者受け入れなど、支援にあたったJCHO 職員の迅速で懸命な活動を評価いただきました。

被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、引き続き被災された皆様の支援に取り組みます。



◆ 熊本県知事より JCHO 尾身理事長へ感謝状 ◆

4月に発生した熊本地震に際し、被災地や避難所等における支援活動に対して、熊本県の蒲島知事より感謝状が贈られました。DMAT や医療救護班の派遣、被災地域からの患者受け入れなど、支援にあたったJCHO 職員の迅速で懸命な活動を評価いただきました。

被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、引き続き被災された皆様の支援に取り組みます。

◆ JR 浦和駅で人命救助 ◆

東京山手メディカルセンター 整形外科 田代 俊之 医長

10月に浦和駅西口で意識を失った男性に心肺蘇生法や AED による救命処置を行ったことに対し、さいたま市浦和消防署長より感謝状が贈られました。

田代医長は、長年、実業団長距離陸上チームのチームドクターを務めており、共に居合わせた JR 東日本ランニングチームのスタッフと救助にあたりました。



前列右が田代医長

生で、全部で6〜8人の医師で業務をしていました。内科の一般入院は多い時で10人程度を担当し、その他、整形外科で手術をされた患者さんで、高齢の方が多かったため、内科疾患を併発されて肺炎を起こしてしまうとか、そういう方のフォローなども同時にやりました。

メリットとしては、私も九州病院では外来はしておりませんので、外来の業務に携われたのはいい経験でした。また、登別の土地柄、中国や台湾など海外からの観光客が多く、ほとんど日本語が話せない、英語も微妙で、こちらも英語をあまり話せない中で診察を行う経験ができたことも良かったです。

病棟業務では、なかなか意思疎通が取れない患者さんの診療をする時に、ご家族やソーシャルワーカー、看護師など他職種の方と話をする機会が多く、これも九州病院ではあまり時間が取れずできなかったことでした。

メリットについては、循環器医として私はカテテル検査を今はメインに行っていますが、その業務から1か月離れたことです。あと、個人的には派遣が直前に決まったので、かなりバタバタしてしまったところが大変でした。

吉住 ●それぞれ JCHO を代表する大きな病院から来られて、今の病院と全く雰囲気が違うところで色々な経験をされたというように伺いました。沢山のメリットを挙げていただき、本部としても、今後も医師派遣を続けていくにあたって力になるご意見をいただ



● 10月3日 二本松病院 産後ケアセンター開所式

産後4か月以内の母子へ助産師が専門的な支援をおこなう「二本松市産後ケアセンター」を開設しました。二本松市には現在分娩をおこなう医療機関がないことから、産婦の負担軽減のため二本松市より委託を受け、協議を重ねて事業を立ち上げました。産科病棟を改修して、室内には産婦用のベッド2床、ベビーベッド2床、沐浴室、シャワー室などを備え、日帰りで母子の健康状態の確認、乳房ケア、育児相談、沐浴指導などをおこないます。



● 10月21日 情報セキュリティ研修

● 11月22日 ハラスメント研修



● 11月22日 東京医療保健大学との調印式

東京医療保健大学を運営する学校法人青葉学園との協働事業協定書等に調印しました。同大学は2018年4月より船橋研修センターの建物を活用して千葉看護学部（仮称）を設置予定。主な実習を船橋中央病院で行うなどの連携をいたします。



秋田病院 副院長
金子 兼喜

たと思います。次に、研修中の生活環境についてご意見はありますか。
玉腰◆生活環境についてもほとんど不満がなく、普段よりいい生活をしてい
たと思います。食事も毎食出ましたし、
宿舎もきれいで広い部屋でした。

佐々木◆僕も不満はありません。健康的で普段よりもいい食生活を送りました。海辺の町で海鮮もおいしく、夜は他の病院から研修に来られた先生とよく一緒に食事をしました。寮もきれいでし
た。強いて一つ挙げるとすると、虫がかなり出るといってはありました。

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。

実際に行くことで見える 都会との医療の違い

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。



高岡ふしき病院 院長
加藤 弘巳

加藤◆まず、若い医師に来てもらうという
ことで病院が活性化されます。また、

若い医師が病院を活性化

内野◆今日は、医師派遣を受け入れた立場からお話を伺います。はじめに来ていただく
良くなった点を教えてください。

第2部 受け入れ病院

内野◆医師派遣の担当をしている内野です。今までは病院間で派遣の取り決めを
やっていたものですが、いろいろな不安な点
も出てきました。今後は、きちんと本部が
介入してシステムを作って、条件、待遇
などを決めて、派遣される先生方の希望も
伺い、受け入れ先の病院の態勢も整えな
がら、可能であれば指導医を付けるよ
うな形でやっていきたいと思っております。
ありがとうございます。



若狭高浜病院 院長
河野 幸裕

金子◆通常は、午前中に内科の新患の患者さんの診察。午後は、研修医の先生の希望を聞いて、それぞれ関心のある
うか。

内野◆業務としては、一般の入院や病棟業務を担当してもらっているのでは
ないか。

金子◆当院でも、現在では常勤医が19名まで増えましたが、数年前は14〜15名
で結構大変な状況でした。医師の年齢層も平均年齢が53歳ぐらいで、若い医師が入ってくることは病院の中に人材として多様性が出てきて良いと感じて
おります。

河野◆地域医療研修枠としてJCHOの病院を含め7〜8の病院から来ていた
だいています。昨年度は34人、今年度は11月までで20人近く。1月あたり2〜3人の医師が増えるというメリッ
トがあります。また、中京病院から初期研修が終わった3年目の先生を派遣して
いただいているのは大きいです。



司会：理事(総合診療医・病院経営担当)
内野 直樹

加藤◆外来診療は、すぐ隣の部屋で診察
していますので、「分からなかったら質問してくれ」という感じで、彼らは
彼らなりにちよつと時間がかかるけれども、一生懸命対応してきますね。

金子◆これまで負担が大きかったと感じたのは外来患者が非常に混雑した時間帯の時だけで、コンサルテーションに関しては、それ以外は特別強い負担は感じて
おりません。

内野◆指導する先生方のご負担は大きい
です。

金子◆内科外来では、曜日によって3名が交代で指導にあたっております。
加藤◆初期研修の先生は、将来の希望に応じて、外科系志望は外科系、内科系志望は内科系の医師に付くという形です。後期研修の先生はもう独立しておられますので、特に指導医は決めず、疾患ごとに相談医を付けています。



中京病院 専攻医
玉腰 大悟



大阪病院 初期研修医
佐々木 強



九州病院 専攻医
阿部 巧



司会：JCHO 本部医療課長
吉住 奈緒子

指導医とのフィードバック 同規模の病院での交流を

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

吉住◆最後に、今後、地域へ派遣されて研修を受けることになる後輩の方にメッセージをお願いします。
玉腰◆やりがいのある研修もできますし、ご飯もおいしいですし、休日には観光できる所も沢山あるので、積極的に
行ってほしいです。

阿部◆私も宿舎はかなり広くてきれいな所で、病院から車で10分程度でした。登別もお魚とか、結構海鮮がおいしいです。不満な点としては、病院の近くにはほとんど飲食店がなく、車で20〜30分の室蘭の方に行くとかになるので、時間かかるのは少しマイナスかと思っています。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングが
あったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

阿部◆外来でも病棟でもオーダーリングがあったと思います。

第2回 JCHO地域医療総合医学会



平成28年9月16日(金)、17日(土)の両日、東京都港区のTKPガーデンシティ品川・JCHO本部研修棟を会場として第2回JCHO地域医療総合医学会が開催されました。メインテーマは「スタートしたチームJCHO」その軌跡とミッションの達成に向けて。今号では、JCHOのミッションを達成するための主要なテーマを取り上げられた「継続シンポジウム」と「シンポジウム」の座長を務められた皆さまに、各セッションの概要やセッションを終えての感想を伺いました。

今回は、継続テーマシンポジウム「地域医療の革新と地域づくり」の座長として、また地域医療機能推進学会の担当理事としても参加した。シンポジウムの基調講演では、前下関市保健部長で現厚労省健康局総務課長補佐の長谷川学先生が地域医療構想を概観したのち、私見と断られたうえで制度の定着には関係者の責任感と強い意思をもった取り組みが必須であり、これがなければ前へ進まないとの意見が印象的であった。続く3人の演者は、各地域での実情を踏まえつつ地域包括ケアシステム推進の中心的役割を果たしてきたとの報告を行い、各病院が着実に地域での地歩を固めていると感じた。



万代 恭嗣 (東京山手メディカルセンター 院長)
 島田 信 (東京山手メディカルセンター 院長)

継続テーマシンポジウム 1

地域医療の革新と地域づくり

それぞれの地域で求められているJCHO病院の役割と地域医療・地域包括ケアへの貢献

座長 万代 恭嗣 (東京山手メディカルセンター 院長)

学会全体としては、第1回から短時日にもかかわらず多くの参加者があり、熱心な討議をしていった。見学にと訪れた看護関係のポスターセッションは、内容のある発表で大いに参考と



(左) 研修中に学んだ症例を発表 (右) 1か月の研修を終え院長が修了証を手渡す (高岡ふしき病院)

内野 ● 医師の受け入れであり良くなかった点はございますか。
 河野 ● ほとんどないと思います。良い面が99%ですね。
 金子 ◆ 当院でも派遣していただいて助かっております。今後も継続していただきたいと思います。

加藤 ◆ 他のドクターにもいろいろ聞きましたが、デメリットはないですね。
 内野 ● いろいろご苦労もあったと思いますが、良かった点のほうが非常に多かったということでしょうか。次に、派遣を受け入れるにあたり、準備したこと、配慮されたことを教えていただけますか。

派遣期間を快適に過ごす生活環境にも配慮

河野 ◆ いろんな家財を持ってこなくても1か月間不自由なく暮らせるように、調理器具、パソコン、電気毛布などをどの部屋にも用意しています。帰る頃に1か月の感想を書いてもらうんですけど、そこに「カーテンが汚かった」とあれば、カーテンを替え、「下水の流れが悪い」とあればそこを直し、絶えず設備を少しずつ更新しているおかげで、「ほぼ快適に過ごせました」という意見が多いです。ホームページにも研修医の声として掲載しています。
 内野 ● 派遣元の病院に対して要望はありますか。

河野 ◆ 今は月に3日位のペースで後期研修医の先生に来ていただいているので、秋田のように月単位で後期研修医が来るのなら理想的だとは思いますが。金子 ◆ 研修期間については、先生方の事情もあるでしょうから、1か月を3か月、半年に延ばしてということも積極的に考えておりません。こちらで提供できる医療を経験していただき今後

の糧にしていただければ。そういう姿勢で受けております。

初期研修医については、医療安全や院内感染に関する教育の時間がやや少ないのかなという印象があります。医学部の教育も進んでくると思いますが、研修プログラムで、こういった面を少し強化してもよいのではと思います。

内野 ● 本部に対しての要望はどうでしょうか。例えば、派遣を受け入れたい病院と出せる病院にそれぞれ手を挙げてもらって、本部で調整して派遣を行って方がいいのではないかと私は思っています。

金子 ◆ 本部で一括して安定的なシステム作りを目指しているというのは非常に期待したいと思っています。

ひとつ、整形外科医からの要望ですが、この地域は高齢者が非常に多くて、整形外科の入院患者さんでも多疾患で合併症を持っている方が多い。内科的なものを全般に管理できるような病棟医、いわゆる病院総合医といえますか、地方の病院へそういった医師の派遣は可能でしょうか。整形外科医は主病名に関して集中的に治療し、その他の内在する身体的な問題に関しては病院総合医が対応する。二つの医師が病棟に配置できれば病院の質も内容もよくなるし、地域への貢献も大きくなるのではないのでしょうか。

内野 ● JCHO版の病院総合医構想が順調に稼働すれば、後期研修を終了した医師を派遣できるようにします。期間も3〜4か月の予定ですので、そ

すればだいぶ変わってくると思います。
 加藤 ◆ 派遣元の病院との取り決めの中で、現在、初期研修医は当直を行わないことになっていますが、来られた先生の中には熱心に当直をやりたいという先生もおられましたし、重症例をしっかりと泊まり込みで診ることも時には必要じゃないかなと。

内野 ● そういったことも含め、本部で基本になる医師の派遣のルールを決めていった方が……
 加藤 ◆ ええ、やりやすいと思います。

内野 ● 今後、派遣される医師に対してメッセージをお願いします。

加藤 ◆ 何でも言うていただくことが大事だと思います。こういうことがしたいとか、こういうことが分らないとか。要望を出していただければ、できる限り添うようにしますし、できないものはできないと申し上げます。口下手な先生もいらつしやると思いますが、できるだけだけ我々も本音を引き出せるような環境を整えていきたいと思えます。

内野 ● ありがとうございます。今後も本部としてグループ内の医師派遣を強化していきたいと思っております。問題点があれば教えていただき、それと早めに直していくような形をとりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

本座談会はLynxにより本部と各病院をつないで行いました。

継続テーマシンポジウム 2

人材の育成

総合医等の育成のキーポイント
— 自院での取り組みの現状と課題 —

座長 山崎 芳郎 (大阪病院 院長)



第1回に引き続き、「人材の育成」が継続テーマシンポジウムに取り上げられた。東京高輪病院 木村院長とともに座長を務め、演者5名のご発表およびフロアからの質疑応答も活発に行われ、有意義な時間を共有出来たと感じている。

まず、既に総合診療医の育成が始まっている神戸中央病院（近藤 Dr）・東京山手メデイカルセンター（笠井 Dr）・滋賀病院（有村 Dr）から、独自の育成プログラム・修練環境・指導体制などの現状と今後の課題が紹介された。課題として、①総合診療マインドを有する専攻医確保の困難、

②指導医のスキルアップをはじめ指導体制の充足度不備、③JCHO版病院総合医（Hospitalist）育成案に関する情報や連携の周知不足が挙げられた。中でも、新専門医機構からの総合診療専門医育成プログラムが具現化されていない今日、地域の医療・介護に対し包括的医療サービス提供の意思を有する若手専攻医確保が重点課題であると思われた。

一方の看護師育成に関しては、九州病院（元嶋Ns）・大阪府看護協会（高橋Ns）から様々な苦労話が報告された。即ち、育つ人の確保（臨地実習や説明会の拡充）に限らず、育てる人を育てる方策（良質な人間関係構築と臨床指導者研修会への参加）、更にはチーム医療実践に欠かせない認定・専門看護師や将来の特定看護師の育成（特定行為研修への参加）が重要であり、予算や勤務時間面での支援が今日以上に工夫された本部主導システム作りを強く要望された。

継続テーマシンポジウム 3

事務職に求められる病院マネジメント

座長 宇口 比呂志 (JCHO 理事)

最初に私から、(株)日本経営と共同で開発した経営分析システム「Libra」(リブラ)開発の経緯を説明した。

経営改善に取り組むには、経営分析に

より課題を明らかにし、対策を検討する必要があるが、データをもとに経営戦略を考えられる病院とそうではない病院がある。また、個々の病院の努力では、1

シンポジウム 1

JCHOにおける健康管理センターの役割

座長 大友 敏行 (神戸中央病院 院長)

検診は単独でも成り立ちますが、病院併設のメリットは本体病院との連携によりお互いの収益性が増すことにある。今回は改めて様々な規模で頑張っておられる岸川秀樹・熊本総合病院副院長、多田豊治・四日市羽津医療センター健康管理センター長、岡本裕裕・神戸中央病院健康管理センター長、中城博見・伊万里松浦病院院長にシンポジウムとしてご発表いただき、ご苦労点や収益性を示していただいた。

私の感想では、なかなか急性期医療現場では利益が出せない中、検診では努力した分は確実に収益が見込めると感じた。それはおそらくJCHO病院群への信頼感が基礎にあるからだと思う。

病院規模に応じた検診による定収入を確保した上で、良質な医療介護を実践することはグループ内の他の多



くも様々な病院とのベンチマークがリアルタイムで可能となる。また、JCHOは文化の違う3団体を統合したことから、同床異夢で行き違いもあったが、今は同じ土俵で話ができるようになるのも大きなメリットである。

続いて、日本経営の笹真人氏が「Libra」の概要を紹介した。「分析サマリ機能」の事例では、基本的な経営指標のベンチマークを作成し、自院の課題の把握や他の病院の指標との比較が可能と説明。また、「診療報酬算定支援機能」の事例では、診療報酬請求の妥当性検証と請求可能性分析を行うことにより、改善効果が高い診療行為が把握できると説明。これらの分析結果を経営状況の向上に結び付けるため、毎月の経営会議等で活用して欲しいと語った。

最後に、共に座長を務めたJCHOの内野直樹理事が、「病院の手を縛るように受け止めるかもしれないが、そうではない。また、Libraを導入したら経営がよくなるというだけでもない。個々の病院がこのシステムをどう活用するかが大事であり、安定的な経営を実現することが目標だ」と締めくくった。



シンポジウム 2

地域包括ケアにおける認知症への取り組み、これまでもこれから

座長 住田 安弘 (四日市羽津医療センター 院長)

本シンポジウムでは5名の演者が報告を行った。それらをまとめると次の3点になると思う。

① チーム医療による高齢者の管理 (Dementia Support Team (DST) による回診や検討が非常に効果的である。特

に認知症サポート医や認知症認定看護師を交え、施設基準を満たせば認知症ケア加算1が算定できる。発表された5施設のうち現在ケア加算1が2箇所、2は1箇所で算定されていた。ぜひチームの立ち上げやケア加算の算定などに取り組んでいただければと思う。

② 認知症周辺症状 (BPSD)

への対処で困っている施設が多い。しかし精神科リエゾン・コンサルテーションを導入し成功した施設の報告を聞き、困難例の多い施設では、週に1回でもリエゾンの導入を考慮してはどうかと思った。

③ 地域包括ケアにおける認知症への取り組みについて発表があり、病院で行っている取り組みを地域全体に拡大して行く必要性と重要性を認識した。

このように、本シンポジウムの各報告は、今まさに地域医療に求められている重要課題に対する取り組みであり、これから始めようとしている施設にとっては大変参考になったと思う。



シンポジウム 3

JCHO病院間の医師派遣への対応

座長 前場 隆志 (りっりん病院 院長)

第1回学会と同様のテーマで、中京病院細川院長と共に座長を務めた。事前の院長アンケートでは「医師不足」で悩むJCHO病院は全体の7割強で、病院運営の大きな障壁の一つとなっていた。今回も各演者から「医師不足病院の厳しい現状」、「JCHO病院緊急支援による地域医療崩壊の回避事例」、「派遣医の地域研修経験」、「今後の本部方針」等の報告があり、尾身理事長も終始聴講された。しかし、地方ではJCHOに限らず多くの病院群が医師確保に四苦八苦している最中、本シンポで有効な解決策を見出すことには限界を感じた。現段階では、現場に対しては「医師確保に向け特徴的かつ魅力的な病院創り」に、本部に対しては「派遣可能医の登録・派遣要請病院の精査・JCHO版病院総合医育成プログラムの登録医確保」に「尽力頂きたい」。



幸い理事長は厚労省分科会や日医委員会を通じて全国規模の医師偏在解消対策にも大きく関与されており、JCHO病院医師確保に対しても一層の助言をお願いしたい。

シンポジウム 4

特定行為研修制度を活用した地域医療への貢献の可能性

座長 河嶋 知子 (JCHO本部 患者サービス推進課長/看護研修課長)

チーム医療を推進し看護師がその役割をさらに発揮するため、平成26年6月に「特定行為に係る看護師の研修制度」が創設された。本シンポジウムでは、制度のねらいや研修内容の概説、研修を終えた看護師の活動の実態について意見交換を行った。

患者や家族への影響、医療従事者間の連携、看護師に期待すること等について、具体的に検討することができた。

JCHOにおいても、29年度から研修の指定研修機関となる準備を進めている。単に個別の特定行為を身につけるためのものではなく、病態の変化を包括的にアセスメントする能力を強化し、状態に合わせたタイムリーな対応を行い、その人らしい生を支えるという看護の本質を向上することがねらいである。病院の管理者、特に看護管理者



が本研修を理解し、地域で制度を活用する意義を捉え、研修終了看護師に期待する役割を明確にすることが求められる。今後も引き続き、充実化に向けて検討を続けていく。

学会事務局より

一般社団法人地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

第2回JCHO地域医療総合医学会は、開催までの準備期間が6か月半と短く、第1回学会と同様、手探り・網渡りの学会運営になってしまいましたが、何とか無事に終えることが出来ました。JCHO職員の皆様には心より御礼申し上げます。

さて、学会事務局では平成29年11月17日(金)・18日(土)に、東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川及びJCHO本部研修棟を会場に開催いたします。第3回JCHO地域医療総合医学会の諸準備を進めております。今回は開催までに時間的余裕がありませんので、これまでの課題や修正点、皆様からのご意見・ご提案を取り入れたプログラム編成にしたいと考えております。

本学会が設立し漸く2年が経過しました。まだまだ発展途上の組織ではあります。学会や学セセミナーの開催をはじめ、福利厚生制度の一層の充実を図るべく各種事業に取り組んでおりますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



広報力向上への取り組み

～病院の広報実施状況等調査より～

JCHO 本部広報文書課

2016年8月に全57病院を対象に「病院の広報実施状況等調査」を実施しました。各病院では、自院や地域の状況に応じた様々な広報活動をおこなっておりますが、調査結果を踏まえ、広報力向上に向け取り組むべきポイントをお知らせします。

● 広報誌で地域へ情報を発信！

広報誌はもっとも身近な広報手段です。インターネットが普及した今でも、紙媒体のもつ安心感、信頼感、さまざまな世代の方が訪れる病院にとって有効です。

調査結果によると、現在全57施設のうち52施設が広報誌を発行し、患者さま、利用者さまをはじめ、行政や近隣の病院、医療機関などの連携先へ配付しています。また、21施設が複数の広報誌を作成し、配布先を区分するなどのきめ細やかな情報発信をおこなっています。

本部作成の「JCHO ニュース」は、17施設が行政等、33施設が近隣の病院等、30施設が患者さま、利用者さまへ配布していますが、12施設は院内のみの配布になっています。

地域の医療を支える一員として連携を進めるうえで、今まであまり関わりのなかった事業所などにもアプローチの必要性が高まっています。広報誌の対外的な配布を進め、内容の見直しをおこないましょう。

● ホームページは新鮮さが命！

病院のホームページを訪れるのはどのような時でしょうか？

休診のおしらせは、受付時間は、交通アクセスは…

ホームページの更新頻度は、頻繁な施設とそうでない施設が二極化の傾向がみられました。きめ細かい更新を心掛けることが大切です。患者さま、利用者さまが知りたいと思われることが、わかりやすく掲載されているか。最新の情報となっているか。再確認をおこないます。

ホームページは就職活動中の方の閲覧が多いメディアでもあります。採用情報をはじめ、就職希望者にお伝えしたいことが網羅できているかについても検討しましょう。

また、広報誌で紹介した内容をホームページでも記事として作成するなど、自院の強みである分野や、公開講座などの患者さまや地域の皆さまに対する取り組みについても積極的に掲載してご紹介していきましょう。

● 様々な広報手段を活用！

広報誌とホームページ以外の広報手段の実施状況は右の表のとおりです。未実施の項目の中にも各病院の情報を届けるのに有効な広報手段があるかもしれません。自院や地域の状況に応じた広報手段を検討しましょう。

最後に職員の皆さまへ…

広報は「広報担当者」が行うものとお考えではありませんか？

広報とは情報交換です。あなたにとって当たり前のことが、それを知らない人にとっては大切な情報源として判断する力になります。そして、病院はプロフェッショナルの集団であり、あなたの仕事について一番情報をもっているのはあなたです。

● 広報誌を発行していますか？

(回答のうち、年報、診療科案内、採用関係のものを除く)

はい		52施設	
(内訳)	1作成誌	31施設	
	2作成誌	14施設	
	3作成誌	7施設	
いいえ		5施設	

● ホームページの更新頻度は？ (回/月)

1～3回	27施設
4～7回	5施設
8回～	11施設
その他 ※ 随時・適宜・不定期	14施設

● 実施している広報手段は？ (複数回答)

病院主催イベント等の開催	51施設
パンフレットの作成	50施設
新聞広告掲載	28施設
イベントへの出展	28施設
地元自治体の広報等への掲載依頼	20施設
コミュニティ誌等への広告掲載	19施設
マスコミへの情報提供	18施設
雑誌・サイトへの掲載	14施設
facebook	12施設

第2回JCHO地域医療総合医学会 講師・座長・シンポジスト一覧

一般演題 口演発表 (282題)

テーマ	演題数	座長
地域医療・介護 (地域包括ケア)	17	室谷典義 (千葉:院長)、藤田宜是 (横浜中央:院長)、加藤弘巳 (高岡ふしぎ:院長)
連携 (退院調整)	6	河野幸裕 (若狭高浜:院長)
医療技術	54	伊藤美夫 (登別:院長)、白尾一定 (宮崎江南:院長)、吉永憲正 (徳山:診療放射線技師長)、菅沼泰 (京都鞍馬口:統括診療部長)、草野英二 (うつのみや:院長)、佐々木功典 (下関:院長)、来見良誠 (滋賀:院長)、長郷国彦 (諫早:院長)、山田光俊 (高知西:院長)
診療	31	下川恭弘 (人吉:副院長)、根橋良雄 (湯布院:院長)、関根信夫 (東京新宿:院長)、石井耕司 (東京蒲田:院長)、大井田正人 (相模野:院長)
運営 (病院運営)	13	佐々木文章 (札幌北辰:院長)、浅見昭彦 (佐賀中部:院長)
検診	5	竹口東一郎 (天草:院長)
連携 (患者-医療者のパートナーシップ)	10	池田登 (玉造:院長)、野田晏宏 (福岡ゆたか:院長)
連携 (地域連携)	9	岩崎厚子 (桜ヶ丘:総看護師長)、大矢早苗 (中京:看護部長)
内部統制・リスク管理・診療報酬改定等	8	横須賀収 (船橋:院長)
患者サービス	6	朝倉徹 (仙台南:院長)
情報	6	佐々木仁史 (東京山手:事務部長)
地域医療・介護 (高齢者医療)	8	田中真紀 (久留米:院長)
地域医療・介護 (地域医療・医療)	12	田代雅彦 (群馬:院長)、田熊淑男 (仙台:院長)
連携 (栄養サポートチーム)	7	亀川隆久 (南海:院長)
地域医療・介護 (地域医療・介護)	9	小澤俊総 (山梨:院長)、兜正則 (福井勝山:院長)
運営 (人材育成)	10	渡部昌平 (宇和島:院長)、吉田和子 (仙台:看護部長)
運営 (組織マネジメント)	7	黒田豊 (さいたま北部:院長)
連携 (チーム医療)	28	松本昌泰 (星ヶ丘:院長)、真原康行 (大和郡山:院長)、木本妙子 (九州:副看護部長)、岸田喜彦 (可児とうのう:院長)
安全 (医療安全・医療事故調査制度)	10	鳥谷部悟 (仙台:診療放射線技師長)、中馬敦 (東京城東:院長)
安全 (感染・褥瘡防止)	19	村本弘昭 (金沢:院長)、森望 (大阪みなと:院長)、中城博見 (伊万里松浦:院長)
安全 (TQC活動)	7	後藤英司 (横浜保土ヶ谷:院長)

一般演題 ポスター発表 (80題)

テーマ	演題数	座長
安全 (医療安全・医療事故調査制度)	4	善家かずみ (大阪みなと:看護部長)
安全 (感染・褥瘡防止等)	4	圓能寺貞子 (久留米:総看護師長)
医療技術	10	齊藤幸弘 (横浜保土ヶ谷:臨床検査技師長)、伊藤和幸 (中京:副薬剤部長)
地域医療・介護 (高齢者医療)	6	福井是子 (可児とうのう:看護部長)
地域医療・介護 (地域医療・医療)	11	井出志賀子 (埼玉:看護部長)、細野克子 (うつのみや:看護部長)
運営	6	森田克徳 (中京:事務部長)
連携 (チーム医療)	11	土居早苗 (宮崎江南:看護部長)、安富恵美子 (大和郡山:看護部長)
診療	10	古本たつ子 (下関:看護部長)、野村仁美 (金沢:看護部長)
地域医療・介護 (地域包括ケア)	8	的場由紀子 (札幌北辰:看護部長)、鈴木佐紀 (仙台南:看護部長)
連携 (栄養サポートチーム)	4	平正人 (星ヶ丘:栄養管理室長)
連携 (患者-医療者のパートナーシップ・地域連携・退院調整)	6	長谷川美穂 (船橋:看護部長)

地域に貢献する JCHO病院の取り組み

JCHOの各病院では、地域の実情に応じながら、医療サービスを提供しています。今号では、小児医療、周産期医療、へき地医療について、地域に貢献する3病院の取り組みをご紹介します。

小児医療

休日・夜間の初期対応で子育て世代に安心と安全を提供

さいたま市大宮休日夜間急患センター
さいたま北部医療センター 小児科 中村 明夫

平成21年3月に、さいたま市の休日夜間の初期救急機能を担う目的で当院に「さいたま市大宮休日夜間急患センター」が開設されました。さいたま市では大宮以外にも浦和、与野、岩槻に「休日急患診療所」が設けられ、市の事業として運営されています。

当院の「さいたま市大宮休日夜間急患センター」が他と違うのは深夜帯の小児科診療を行っている点です。開設以降は、休日・夜間帯に受診を希望するさいたま市内の小児患者はすべて24時間体制で初期対応することになり、



必要な場合は市内輪番制の二次・三次の医療機関に紹介する医療体制となりました。この結果として、さいたま市では初期救急患者が個別にそれぞれの医療機関へ受診する事態はなくなり、休日夜間診療および医療資源の集約化ができるようになりました。



当センターでの診療は当院の小児科医だけでなく地域医師会の協力を得て運営されています。看護師は各勤務帯毎に2名、薬剤師は1〜3名、事務員2〜9名で専門的ケアに取り組んでいます。さらに、緊急性・重症度の客観的判断を迅速に行うためトリージング専任看護師を配置し、これにより診療や待ち時間に関する患者からのクレームが減少してきています。

このように当センターは、平日昼間のみならず休日・夜間も子どもの健康を守る役割をはたし、子育て世代に安心と安全を提供する場ともなっています。

周産期医療

搬送の受け入れは地域の中で

中核病院として一翼を担う

相模野病院 周産期母子医療センター長 吉原 一

当院は神奈川県周産期救急医療システムの中核病院として、県央北相地区の周産期医療の提供に毎日努力しています。北里大学病院を基幹病院として、地域の産科施設から早産になる可能性の高い母体の搬送を受け入れています。また、相模原地区で発生した母体搬送の症例はできるだけ市内で受け入れるという方針の下、大学病院と協力して診療を進めています。搬送疾患は切迫早産を始めとして、妊娠高血圧症、前期破水など多岐に及んでいます。



平成27年は49例の搬送依頼があり、そのうち27例を受け入れました。取り扱い分娩数は800件、うち帝王切開が246例で、全体の30%を占めます。これは搬送により緊急性の高い症例が多いためです。

また母体搬送の症例だけでなく、NICUで新生児搬送も受け入れており、平成27年には72例の新生児を受け入れています。1年間に管理した新生児は264例で、1500g未満の児が14例ありました。

産科とNICUスタッフの情報共有を大切にして、毎週周産期カンファレンスを行っています。緊急帝王切開が多いことから、手術室とも緊密に連絡を取りながら、診療に当たっています。また、当院は日本周産期新生児医学会認定の研修施設で、現在産科専門医を目指す先生が研修を行っています。現在素晴らしいスタッフに恵まれて、少しでも早産で生まれたお子さんの予後



へき地医療

移住者で活性化する離島に整形外科診療支援

玉造病院 整形外科 吉田 昇平



島根県隠岐郡海士町の中ノ島は、隠岐諸島の島前に属し、島根半島の沖合約60kmの日本海に浮かぶ島である。島唯一の交通手段は船であり、本土よりフェリーで約3時間、高速船で約1時間の距離に位置する。歴史的には承久の乱後、後鳥羽上皇が配流された島として有名である。面積は33・5km²、人口が約2300人の小さな島であるが、第3セクターを立ち上げるなど町の努力が実り、近年移住定住者が増加しつつある。島唯一の医療機関である海士診療所には、内科、小児科の常勤医が2人在籍する。

2012年11月、海士町主催での健康講座の依頼が当院にあった。その際、海士町における高齢化に伴う整形外科領域の患者が多数占める現状、本土での受診困難な実情などを聞き、「何とか協力できないか」と、院内で検討した。結果、2013年5月より当院、整形外科医が月1回、派



本土と島を結ぶフェリー。七瀬港または境港から約3時間。

遣医師として診療に従事する事となった。診療時間は毎月第二土曜日午前8時30分から12時まで。予約制とし、20人前後の枠としている。診療時間の短縮、効率化のため、基本的にレントゲン撮影は前日までに診療所常勤医に施行して頂くなどの工夫をしている。更なる精査治療が必要な場合、後日当院へ紹介している。今後も診療所との連携を図り、患者が円滑に受診できるようにする事が大切である。また、派遣診療継続の為にマンパワー確保が重要であり、JCHOとして組織的に人材確保できれば理想的と考える。